

イ ガイド学習の工夫・改善

以上のような取組を行いながら、ガイドの段階的育成を図った上で、「ふかめる」過程を、充実させることはできないかと考えた。それで、右の【資料9】のように「ふかめる」過程をさらに3つに分け、具体的な指導・支援の在り方を探った。

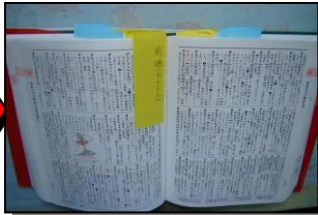
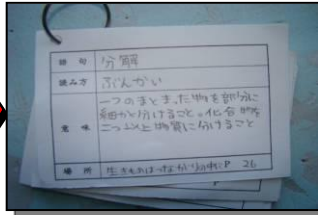
また、指導していくに当たっては、基本的な「話し合いの仕方の例」【資料10】を示し、役割を変えて何度も復唱させることで、話し合いのパターンをつかませるようにした。

さらに、少人数であるために、多様な考えや望ましい考えが出てこなかったりした場合には、予め担任が、様々な考え方を準備しておき、担任が子ども役になって発表したり、望ましい考えを提示したりする等、目的に応じて多様な考えを提示する工夫を行うようにした。

(3) 辞書引き学習方法の導入

複式指導の中で育ちやすいとされる自ら学ぶ力をさらに身に付けさせるために、また、本校の子どもたちの課題である語句力を身に付けさせるために、低学年の子どもたちから辞書引き学習を行うようにした。さらに、先に、語句指導の段階的指導方法で触れたが、調べた語句をワークシートに一覧としてまとめるだけでなく、【資料11】のように、調べた語句を活用できる工夫を行った。

【資料11：辞書引きとMy辞典作り】

<p>①辞書を引き、語句の意味を調べる</p> <p>国語の教科書の語句を調べる 身の回りにある語句を調べる すべての教科で語句を調べる 新聞の語句を調べる 先生の話題に出た語句を調べる 友だちどうして問題を出し合う</p>	<p>②引いた箇所につ箋をはる</p> 	<p>③「My辞典」を作る</p> 
---	---	--

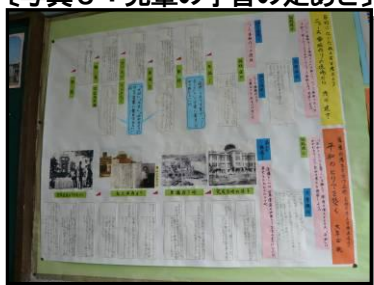
(4) 子どもの学習意欲を喚起する教室設営の工夫

各学級で国語コーナーを設置し、子どもの作文や詩の掲示を行って、子どもの学習の様子を紹介し、学習意欲の喚起に努めている。また、授業で学習したことを掲示し、次の学習の確かめに利用したり、ヒントとして示す等して、学習に生かせるようにしている。

【写真5：学習の振り返り】



【写真6：先輩の学習の足あと】



【写真7：子どもの作品】



段階	子どもの活動	教師の指導・支援
意見を交流する	自分の読みを発表し、友だちと意見の交流をする。	・ 発表話型等、ガイド学習について指導を行う。 ・ 類型化等、読みを整理する。 ・ 多様な考えを引き出す、提示する。
練り上げる	友だちの考えを認めつつ、自分の考えを主張し、お互いの考えを高めていく。	・ 子ども同士の読みをかかわらせる。 ・ 根拠や理由を明確にさせる。 ・ 文章の内容と形式（読み取りの方法）との関連に気づかせる。
まとめる	友だちとの話し合いをもとに、自分の読みを再構成する。	・ 話し合いを生かした再構成をさせる。 ・ 文章の内容と読み取りの方法の両方で、まとめさせる。

【資料10：話し合いの仕方の例】

話し合いの仕方の例

ある年級で、要点をまとめる学習をしました。要点をまとめる段階には、次のような文表がありました。

このように、トラマルハナバチは、春から秋まで、いろいろな植物の花をどされることなく続けられる場所がない。家裏を飛び、手探りを繰り返すことができません。また、使い古された果実を残しておく必要もありません。サクラソウだけが、間に世話をされて花をさせて、その周辺が牧場や畑やゴルフ場に変わり、他の花々がなくなると、ネズミもいないような所では、トラマルハナバチは生きていけないのです。

すると、Aさんのまとめた要点に対して意見が出ました。そして、話し合いが行われました。その様子を記録してみました。

Aさん：はい、わたしは、
トラマルハナバチは、春から秋まで、いろいろな植物の花がどされることなく続けられる場所がない。家裏を飛び、手探りを繰り返すことができない。

どうやら「このように」という前の段階をまとめる言葉があるからです。

ガイドさん：はい、今の発表について意見や質問はありませんか。

Bさん：はい、わたしは、ほんとうAさんと同じなのですが、
ガイドさん：Bさんお疲れします。

Bさん：はい、わたしは、ほんとうAさんと同じなのですが、
ガイドさん：はい、その通りだと思います。今日BさんCさんの発言聞いて、なるほどと思いました。

また、使い古した果実を残してくれるネズミがいることもあった。
というところを書きました（右側）。「また」という言葉があって、付け加えているからです。

ガイドさん：Cさんは、どうですか。
Cさん：はい、わたしも、Bさんと同じです。
ガイドさん：Aさん、どうですか。
Aさん：はい、その通りだと思います。今日BさんCさんの発言聞いて、なるほどと思いました。

3 仮説3の検証 保護者を巻き込んだ家庭学習の充実

(1) 家庭学習の手引き

家庭学習の手引きにおいては、家庭学習を「宿題」と「自主学習」に分け、子どもが、「宿題」によって学習の方法を身に付けた上で、「自主学習」に取り組めるようにしている。宿題については、学年を上がるごとに段階的に学習量が増えるように設定して一覧表に表し、方法や内容についても具体的に明記している。そのため、子どもや保護者も学年が上がることを見据えて学習に取り組める。同時に、教師は、1年生から6年生まで一貫した指導を行うことができる。また、各学年における最低限の学習時間の目安（20分+10分×○学年）を定め、それ以上の学習を奨励している。

(2) 家庭との連携

家庭学習の手引きをもとに、各家庭で家庭学習の見届けや確認をして印をもらっている。特に音読については、音読カードを活用したり、生活ノートに音読チェック欄を設けたりして、家庭でも評価してもらうようにしている。また、家庭でも辞書を引かせ、教科書の語句については、家庭学習で調べるようにしている。さらに、PTAの折に保護者の読み聞かせを行い、読書意欲を高めている。

4 言語環境の充実を目指した取組

子どもたちが学校に入った瞬間から、言葉を学習する環境を作ることで、国語科の学習だけでなく、ふだんの生活の中で言葉に興味を持ち、学習に役立ててほしいという願いを込めて、言語環境の充実を目指した様々な取組【資料12】を行ってきた。

【資料12：言語活動充実の取組】 【写真8：委員会による読み聞かせ】 【写真9：講師の先生との吟行】

- 詩や名文の暗唱
- 読書活動（読書タイム・必読書設定・読書旬間・PTA読み聞かせ）
- 児童朝会での国語学習に関する発表
- 俳句作り・作文
- 校内の設営（廊下・階段・踊り場）



III 研究の成果と課題

1 成果

- 少人数のよさを生かし、子ども一人一人の実態把握を詳細かつ的確に行うことにより、実態を踏まえた授業設計や授業構成が行えるようになるとともに、「個人ケアカルテ」の活用により、継続的・累積的な個に応じた指導ができるようになった。
- 説明的文章の段階的指導内容や段階的指導方法を明らかにすることにより、「読解力」の構造的分析が図られるようになった。その結果、子どもの読みの力がアップすると共に、学び方が身に付いてきた。
- 複式という特性を前提として、指導過程の工夫・改善、指導過程における「わたり」と「ずらし」の工夫・改善により、学習に効果的な指導過程が確立され、子どもたちは、学び方を一層身に付けた。
- ガイド学習の基本的な進め方を子どもたちが理解した上で、ふかめる過程における基本的な指導・支援の在り方を明確にした指導を行うことにより、話し合いが活発になり、学習の補充・深化が図られた。
- 辞書引き学習を行うことによって、子どもたちの言葉に対する興味・関心に高まりがみられた。
- 特色ある教育活動との関連を図りながら研究を進めることで、子どもたちの表現力も高まり、作文・俳句・図画で、研究をスタートさせてから、多くの賞を受賞した。

2 課題

- △ 6年間を見通し、一貫した指導によって子どもの読みの力を高めるために、説明的文章の段階的指導内容や段階的指導方法についてさらに具体化し、整理する必要がある。
- △ 複式指導における各発達段階での到達目標を、さらに明確にし、ガイド学習が深まるようになるまでの指導方法を整理し、工夫する必要がある。
- △ 家庭学習の充実のために、家庭との連携をさらに深めると共に、子どもたちが、より意欲的に取り組めるような家庭学習の在り方を探る必要がある。